

2022(令和4)年度 大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会 「大阪の大学生が取り組む“つなぐ”ボランティア活動」 開催報告

日 時： 2023(令和5)年3月10日(金)13:30～14:30
会 場： オンライン(ZOOM)
学生発表者： 大学コンソーシアム大阪 インカレ学生ボランティアチーム「ACT」 所属学生6名
井上 涼平さん(摂南大学3年)、川内 日未来さん(大阪工業大学3年)、
神高 涼さん(相愛大学2年)、田中 悠稀さん(四天王寺大学4年)、
西村 望さん(追手門学院大学3年)、藤原 知佳子さん(阪南大学2年) ※氏名五十音順
司会進行： 大学コンソーシアム大阪 事務局
参加者数： 19名

1. 開催趣旨

大阪府域の産官学地域連携プラットフォームである「大阪府内地域連携プラットフォーム」は2018年9月の発足から4年が経過する中、この間、大阪府域の教育活動の充実や学生募集、就職支援、また地域連携に係る取組を推進してきた。本報告会は、今年度の活動の成果報告とともに、大阪府内地域連携プラットフォームの活動を広く発信すること、また参加者との意見交換を行いながら、今後のより良い活動に繋げることを目的に開催する。今回のテーマは当プラットフォームが近年取り組む「大学生のボランティア活動」として、複数大学の学生が取り組むボランティア活動の紹介のほか、プラットフォーム活動の一主体である学生と一緒に今後のよりよい活動の在り方について考える機会とする。

2. プログラム内容

- (1)大阪府内地域連携プラットフォームの活動紹介(学生活動を中心に:事務局より)
- (2)事例紹介(学生発表)
- (3)質疑応答・意見交換

3. 学生による事例紹介「大学コンソーシアム大阪 学生ボランティアチーム ACT の取組」

※以下、発表要旨

- ・ACTの活動は、大学コンソーシアム主催のコロナ禍で大学生活に制約のあった学生に対し、交流や新しいことにチャレンジする機会の提供を目的とした学生座談会をきっかけに発足したものである。
- ・ACTの活動はゼロベースから自分たちのやりたいことをするといった考えのもと、学生間の交流イベントや高校生向けのイベントを行ってきた。
- ・ACTの活動状況はかなり頻繁に行っており、LINEや対面によるミーティングを常々行っている。
- ・高校生向けのイベントでは、大学への進学にあたって自分たちが知っておきたかったことを高校生に発信する目的で開催した。
- ・大学間の交流イベントではフリーディスカッションを積極的に行っている。
- ・2022年には、八王子市にある大学コンソーシアムで活動する学生団体との交流を行った。
- ・また、2023年に向けて大きな世代交代があることから、今年はACTの基礎となるイベントを継続した。
- ・「大阪の大学Cafe」では、コロナ禍の制限が一定解かれたことから、対面の良さを生かすイベントを行った。
- ・ACTは人との交流を重要視しており、リーダーを置かず、一人一人の主体性が生きる活動になっている。
- ・一方、活動そのものがまだまだ認知されていないことや、参加学生の世代交代もあり、今後人員不足も懸念される。
- ・対面での交流企画や、他のボランティア団体の関わりも重要だと考えている。
- ・これまでのノウハウを共有しながら、たくさんのイベントの企画を進めていきたい。地域連携活動や、万博も共創チャレンジに参加しており、関連したイベントにも今後挑戦したい。

4. 質疑応答・意見交換

- (1)ACTの活動が、自身の成長にどのように繋がっているか

- ・大学1年生から参加しているが、コロナ禍だったため、オンラインツールの使い方を含め、たくさんの学びがあった。また、人と話すことの重要性が認識できたように思う。活動を通じてイベント等の企画のほかに雑談も行うことでチームの団結力アップにつながっていると思う。大学のゼミや他のボランティア活動の中で生かすこともできている。(学生:藤原さん)

・学内でのプロジェクトに参加したことで ACT の良さを実感できた。ACT 参加前の1年生の時はプロジェクトの進め方がわからず、自分自身戸惑いも多かったが、2年生で参加したプロジェクトでは ACT での経験を生かして段階を踏んで考えることができるようになった。また、3年生のプロジェクトでは経験を生かして、小さなチームではあったがリーダーを務めることができた。(学生:川内さん)

(2) 地域連携の取組に関する具体的なニーズや予定について

・今までは学生同士の交流をメインにしてきたが、万博を目前に控えるにあたり、今年は万博推進局とも意見交換を行った。今後学生が自発的にそのような取組に挑戦することにとっても魅力を感じており、ACT でぜひ実行してみたい。また、学生と連携したイベントの経験を生かして、今度は学生と地域が連携するイベントを進めてみたい。(学生:田中さん)

(3) アクティブに動く学生は多いが、気が付けばその活動に振り回されている場合が散見される。その場合、どのように考えるのか。

・就職活動では数多くの引き出しがあればよいと思っていたが、常に何を目的にやっているのかを意識していた。そのため、振り返りにあってもそれが叶っているかを考えていた。(学生:田中さん)

→自分の柱や目標を見定めて活動を進めていけばよいと考えている。(近畿大学 久氏)

(4) 活動を立ち上げた当時の学生はモチベーションが高いが、数年経過するとそれに追随する学生が多くなってしまい戸惑うケースが散見される。ACT も数年経過するとそのようなことを経験する可能性もあると思うが、その時に後輩に向かってアドバイスできることがあれば教えてほしい。

・時間を経ることで、最初の方向性が変わっていくのではないかと懸念する一方、それは仕方ないという思いもある。活動初期の「これだけは大事にしたい」という思いは維持しながら、その時に合わせて自分たちがしたいと思うことをするのがよいのではないか。またそれが受け入れられやすい雰囲気をつくっていくことが大切ではないか。ACT はその雰囲気があるので、それを引き継いでいきたい。(学生:藤原さん)

→極端な話ではあるが、活動の方向性はその時の学生メンバーで考えてもらえばよいと思っている。自分の好きなことを行ってきたからモチベーションも高く維持できる。活動初期の頃の思いが現在のメンバーの迷惑になってしまうこともあり、毎年リセットしていくことですっきりするのではないか。ある意味メンバーの存在感を消していくということでもあり、先輩はアドバイスはするけれど、あとは任せるといった考えも必要だと思う。(近畿大学 久氏)

(5) ACT の活動を通じた、自大学に対する思いの変化について

・ACT の活動を通じて大学への思いが一層強くなったように思う。他大学の学生と交流することが多く、他大学の特色や学びについても知ることが多くなった。それによって、自大学で学べることは何かと探すようになり、自大学では先輩から後輩に教えるといったことを特色に掲げていることがわかり、その活動に参加するきっかけともなった。(学生:西村さん)

・イベント等を通じて、他大学の学生のほか、他大学の教職員や行政、産業界の方とつながるきっかけが得られ、自大学だけでは得られない視点を獲得し、また視野を広げることができた。学生も大学や学部・学年が様々な学生が集まるため、一遍に様々な考えを知ることができる。それによって、自大学の良さやそうでないことも把握できるようになった。(学生:神高さん)

(6) ACT の活動を今後どのように生かしていきたいか

・これから大学院を目指す予定だが、ACT の活動は様々な学生が集まるのが一つの魅力となっており、大学での学びによるノウハウを知ることができるのは良いと思う。ACT で得たノウハウを今後の自身の学びや自大学の活動にも活用でき、大学を一層盛り上げることができると思う。また、そこでの学びを ACT にも還元、また色々な大学に広めることができ、ACT を中心に色々な大学を盛り上げることができるのは非常によい点だと思う。(学生:井上さん)

・これから社会人になるが、ACT の活動は就活に大きく活用でき、自分のエピソードとして語ることもできた。また、社会人としても、ACT での様々な人との関わりを生かして、接客業でも役立てたいと思っている。社会人になっても ACT とは関わっていきたいと考えられるような活動だったため、これからも ACT のことを応援しつつ、社会人から手伝えることがあれば、手伝いたいと思っている。(学生:田中さん)

(7) 就職活動時の人事担当者の反応はどうだったのか

・コロナ禍での活動だったので、ACT の活動の経験が大きく役立った。コロナだからこそ動けたというのが ACT の活動のように思う。ZOOM を使用して遠方の東京・八王子の大学生とも交流ができたのも、コロナだからこそ実現できたものであった。コロナ禍の中で学生たちがいま思っていることを共有し、コロナが明けたらどういったことをしたいのかを共に語れたことは大きかった。コロナ禍での就職活動では、ACT の中でこのようなことをじっくりと語り合っていた分、コロナが明けて自分がどうしたいのかといった話を就職活動の中でできたのは大きかったように思う。(学生: 田中さん)



5. 参加者アンケート結果
「参加者アンケート」に掲載。

以上

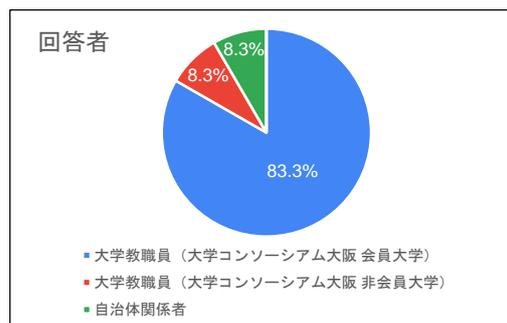
2022（令和4）年度 大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会 参加者アンケート

回答者数12名／参加者数19名 ※回答率63.2%

1. 回答者について

大学教職員（大学コンソーシアム大阪 会員大学）	10
大学教職員（大学コンソーシアム大阪 非会員大学）	1
産業界（企業等）関係者	0
自治体関係者	1
学生	0
地域住民	0
その他	0

12

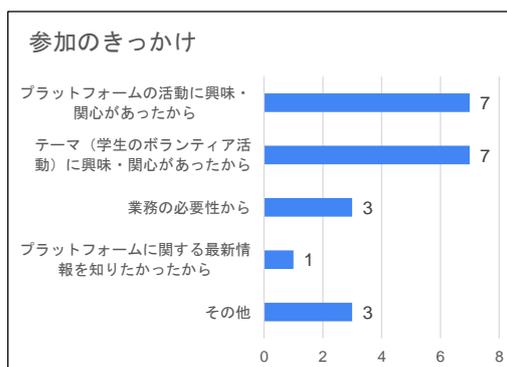


2. 本報告会に参加しようと思ったきっかけ（複数回答可）

プラットフォームの活動に興味・関心があったから	7
プラットフォームに関する最新情報を知りたかったから	1
テーマ（学生のボランティア活動）に興味・関心があったから	7
業務の必要性から	3
その他	3

<その他の記述>

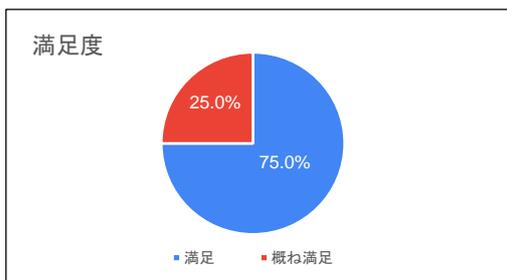
- ・本学の学生が参加していたから（2件）
- ・大学コンソーシアム大阪からの案内



3. 報告会の満足度について

満足	9
概ね満足	3
満足できない点があった	0
不満	0

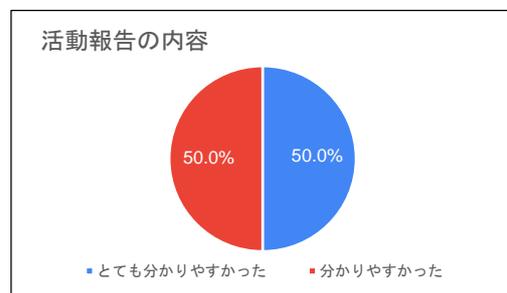
12



4. 活動報告の内容について

とても分かりやすかった	6
分かりやすかった	6
分かりにくかった	0
とても分かりにくかった	0

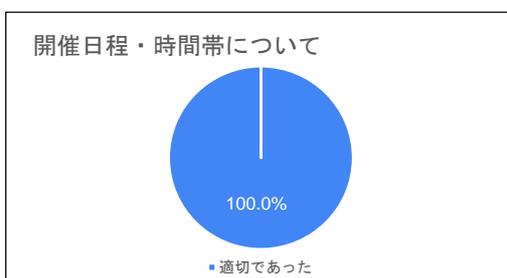
12



5. 報告会の開催日程や時間帯について

適切であった	12
適切でなかった	0

12



6. 報告会の開催時間（長さ）について

適切であった	12
適切でなかった	0

12



7. オンラインでの開催について

参加しやすかった	12
参加型の方が良かった	0

12



8. 発表学生に対するコメント

<p>本学の学生が主体的に参画し、素晴らしい取組をしていることに誇らしく思いました。ありがとうございました。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症流行下での活動に一生懸命取り組まれた様子がよくわかりました。また、ACTでの活動が大学に戻っての活動に還元されているという点について、よく頑張っていたらと思います。</p>
<p>みなさん色々大変なこともあるでしょうが、楽しんで参加されているのがとても良いと思いました。</p>
<p>学生の皆さんがハキハキと発表されていて、とても印象がよかったです。6名がそれぞれバランスよく発言し、また、お互いの話をよく聞いている姿が見られ、普段からよく集まり、話し合いを重ねている様子が安易に予想できました。コロナ禍という特殊な環境の中で、このようなお互いの意見を言いやすい環境を自ら構築し、活動をされているのはとても素晴らしいと感じました。</p>
<p>ACTの活動を活かして、大いに成長して下さい。ゼミ生などにも奨めたいと思います。</p>
<p>学業で忙しい中、ACTの皆さんが積極的な活動をされていたことに感服しました。</p>
<p>みなさんがお互いとてもいい刺激を受け、それを自分の糧にしておられる様子がよくわかりました。本学の学生が学外でも活発に活動していることが分かりとても嬉しく思いました。</p>
<p>現在参加をしていない本学でも案内をすることにより興味を持ってくれる学生もいるかもしれません。そのお手伝いは是非させて頂きたいと思います。</p>
<p>このような活動に参加することで、自分の成長を感じることができるとともに、大きな満足感も得られると思いますが、負担に感じることもあれば、一度立ち止まってみることもよいかと思えます。無理をしすぎる、仲間に無理強いをすることなく、楽しんで活動していただければと思います。</p>
<p>積極的に活動されている様子がよくわかりました。機会があれば、何かイベントや活動で一緒できればと思います。発表お疲れ様でした。</p>

9. 本報告会全般についてのご意見、ご感想

<p>これからの課題も含め、色々挑戦したいことが多々あると思いますが、他の方がおっしゃっていた通り、今までの概念に囚われず自由に活動していただけたらと思います。そしてACTの活動がこれからも継続し、より活性化されることを望みます。</p>
<p>就職活動にACTの活動をどのように活かしたのか、大変興味深かったところです。久先生のご質問も理解を深める上で有益でした。</p>
<p>事務局で準備された、最初の説明資料、最後のまとめ資料、とても分かり易かったです。ありがとうございました。</p>
<p>万博の協創チャレンジの話がもっと聞きたかったので質問しようかと思ったのですが、きっとまだこれからかなと思い質問しませんでした。ぜひまた次の報告会等で教えていただきたいです。楽しみにしています。</p>

10. 大阪府内地域連携プラットフォームの活動に対する意見（期待することや求めること等）

<p>大学、学部、学年を越えた学生の活動をサポートしていることは大変有益な活動だと感心しました。このほかにも、大学集積地の一つである大阪の立地や大学の多様性を活かした地域連携の取り組みを進め、大阪経済・社会の発展や会員大学の一段の質的向上を目指してください。</p>
